

目 次

まえがき　巻頭言	4
研究計画の概要　複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルの開発に関する実証的研究	8
第1部【日本における複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルとしてのJBモデル（辞書引き学習）の導入】	17
高等学校の中国語授業における辞書引き学習導入実践——紙の辞書とオンラインツール活用の試み——	18
[レポート] 大学初級中国語におけるシールを用いた単語学習	49
日本の高等学校における『中日辞典（小学館第3版）』を使った辞書引きの取り組みについて	53
中学校英語科における辞書引き学習実践に関する研究	75
日本の中学校英語科における辞書引き学習実践——石垣市立Ⅰ中学校の場合——	95
新潟県新潟市立石山中学校の第二言語（英語）教育におけるJBモデル（辞書引き）の実践	111
英語辞書引きの取組（島根県　邑南町教育委員会）　島根県邑南町立羽須美中学校、瑞穂中学校、石見中学校3校の実践から～生徒感想アンケートと辞書引き日記から見えてきたこと～	130
[インタビュー] 札幌市立南月寒小学校6年4組児童、同担任新地先生、英語専科千葉先生インタビュー	141
[インタビュー] 森脇家（森脇父母）による辞書引き学習に関するインタビュー	154
辞書引き学習回想（島根県邑智郡邑南町立瑞穂小学校：森脇家）	180
くわな幼稚園における第一言語（日本語）辞書引き学習の実践	189

第2部【イギリスにおける複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルとしてのJBモデル（辞書引き学習）の導入】	199
英国の教育場面における辞書引き学習の意義と効果	200
英国の小学校の授業における辞書引き学習	218
語彙習得学習における語種間共通方略モデルの開発とその実践——辞書引き学習の動機づけと方略の有効性をめぐって——	228
イギリスの公立小学校における辞書引き学習の導入と教師の学び	257
複言語主義に基づく英国の小学校におけるフランス語辞書引き学習の実践	270
英国・中等教育の外国語クラスにおけるLexplore（辞書引き学習）実践	291
第3部【シンガポールにおける複言語学習における汎用的な言語間共通方略モデルとしてのJBモデル（辞書引き学習）の導入】	297
シンガポール・マドラサ・イルシャド・ズフリ・アル・イスラミヤ校における辞書引き学習を取り入れた語彙学習の改良	298
シンガポールのアラビア語学習における辞書引き学習——児童の語彙習得と作文にどのような影響があるか？——	321
「辞書引き学習」と Teach Less Learn More (TLLM) 教育学的アプローチのリンク	324
研究の成果と残された課題	333
子供と言葉の出会いに関する国際比較研究——イギリスにおける「辞書引き学習」の導入事例を中心に——	334
あとがき	356
執筆者一覧	358

まえがき　巻頭言

本書は、2020-2023 年度科研費基盤研究 B 「複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルの開発に関する国際比較研究」による研究成果をまとめたものである。

本研究をまとめるにあたり、これまで 1994 年以来日本で取り組んできた「辞書引き学習」の実践研究のあゆみについて、本書の巻頭言として述べておきたい。

「辞書引き学習」は、1994 年 4 月から 1999 年 3 月にかけて、本書の編著者である深谷圭助により開発された辞書を活用した学習方法である。

辞書引き学習の取り組みは、1997 年 4 月、明治図書の教育雑誌『生活科授業を楽しく』で 1 年間連載され、翌 1998 年に『小学校 1 年で国語辞典を使えるようにする 30 の方法』(明治図書) で世に知られるようになり、現在に至る。1998 年刊行以来、四半世紀を過ぎた現在も絶版となることなく続いているロングセラーである（2023 年 12 月現在）。

当時から、「辞書を小学校低学年から使うこと」「辞書は引くのではなく読むこと」を行っていた。この実践の効力と可能性については、取り組んでいる子供や保護者から大いに評価されていた。

1994 年当時、1989 年改訂小学校学習指導要領において、小学校 4 年生から「国語辞典等の引き方指導」を始めることになっており、同僚教師から「なぜ、学習指導要領で小学校 4 年生からの指導とされているのに、小学校低学年から指導を行なうのか」と揶揄された。

何度も言うが、「引く指導」はしない、「読む指導」をするのである。学習指導要領には辞書の指導を小学校低学年ではなければならないという規定は存在しない。

はじめて「辞書引き学習」に関する実践論文を、勤務先の K 市教育委員会の論文コンクールに応募したとき、案の定「選外」であった。選外の理由は「小学 4 年生（当時）で指導するべき国語辞典指導を小学 1 年生で行っているから」であった。「辞書引き学習」の可能性に自信を深めていた筆者は、「評価の観点」を変えるべく、同論文を A 県教育論文コンクールに応募した。その結果「最優秀賞（個人研究部門）」であった。その研究成果は、1998 年の本となって結実し、現在に至るまで、辞典

出版大手である小学館、三省堂、Benesse 他の絶大なる支援を得て、長い間、日本中の子供たちに愛される学習法となった。

奇しくも 2024 年 2 月～4 月に放送された NHK BS ドラマ『舟を編む～私、辞書つくります～』で「辞書引き学習」がドラマの印象的なシーンとして取り上げられた。このことは、デジタル社会が進展し、学校の教室に一人一台情報端末が配布される世の中においても、「辞書引き学習」には、子供たちや周囲の人たちを「動かす力」があることを物語るものである。

*

*

*

あれから四半世紀、志を一つとした私たち国際研究チームは、伝統的な学習アイテムとみなされている、紙の辞書と付せんを活用した「辞書引き学習」の汎用性を、異なる制度、異なる文化、異なる言語、異なる民族、異なる国民の間で実践、研究、検証を行うことで確かめるという壮大な国際研究プロジェクトに着手した。

この国際研究で、最も困難かつ、重要だったのは、日本で生まれたこの言語学習法を、実際に導入してくれる学校が見つかるかどうかにあった。

深谷は、国際研究パートナーを探すため、2016 年夏にイギリス・ロンドン大学 SOAS の客員研究員となって、研究協力校を探した。研究分担者である吉川龍生教授との出会いも、SOAS においてであった。吉川教授や独立行政法人国際交流基金 (Japan Foundation) の尽力にも拘らず、筆者の在英中は研究パートナーを見つけることができず、失意の帰国となつたが、帰国直後に国際交流基金ロンドン事務所赤澤氏より、イギリスの校長 20 余名が京都視察へ行くので、そこで交渉をしたらどうかとの連絡が入つたのである。そこで意気投合したのが、ジャネット・アドセット英国キャッスルモルトン CE 小学校前校長であった。以来、2024 年 8 年余、同校では辞書引き学習の実践は続けられており、その効果は実証され続けている。

また、シンガポールの実践では、華民 (Huamin) 小学校元校長、現 Principal consultant & partner with Singapore Education Consultancy Group である Edmund Lim WK 氏の尽力によるものである。シンガポールでの辞書引き学習の実践はシンガポール国立図書館での辞書引き学習ワークショップを始めとした展開がこれまでにあり、その実績の上での、シンガポール・マドラサ・イルシャド校での英語・アラビア語辞書引き学習実践報告があると言つても過言ではない。

2024 年 2 月には、インド・サンジャイ ガンジー記念 サー セクパブリックスクー

ル：Sanjay Gandhi Memorial Sr Sec Public School Ladwa-Kurukshetra-Haryanaにおいて英語、ヒンディー語の辞書引き学習実践研究が始まった。多文化、他言語で知られるインドにおいて、私たちの複言語主義、複文化主義に基づく辞書引き学習がどのように実践され、理解されるのか大変興味深く注視するところである。

私たちの挑戦は始まったばかりである。また、私たちは様々な国や言語、制度や文化を超えたこの壮大な研究プロジェクトに関わる同志を求めている。本書を手にした方で、是非仲間に加わりたいと念願する方々との輪が広がることを願ってやまない。

なお、本研究プロジェクトには日本、イギリス、シンガポールの数多くの研究協力者、執筆分担者が参加・参画している。

〈日本〉深谷圭助（中部大学現代教育学部教授）、吉川龍生（慶應義塾大学経済学部教授）、関山健治（中部大学人間力創成教育院准教授）、王 林鋒（大阪教育大学大学院連合教職実践研究科特任准教授）、廣 千香（三重県伊勢市立城田中学校）、高原かおる・赤嶺祥子・西原啓世・伸山恵美子・崎山 晃（沖縄県石垣市立石垣第二中学校）、堀尾亮介・土居達也（島根県邑智郡邑南町立瑞穂中学校・石見中学校・羽須美中学校）、森脇智美・森脇 靖・森脇 嵩・森脇 蒼・森脇明里（島根県邑智郡邑南町森脇家）、水谷秀史（三重県桑名市くわな幼稚園・認定こども園くわな）、青山恭子（福井県足羽高等学校）、荻野友範（慶應義塾高等学校）、千葉里美・新地真広（北海道立札幌市南月寒小学校）、木幡延彦（Benesse corporation）

〈イギリス〉Janet Adsett・Sian Cafferkey（キャッスルモルトン CE 小学校）、丁佳（オルトリナム・グラマー・スクール・フォー・ボーイズ）

〈シンガポール〉Aishah Shaul Hamid・Suffendi Ibrahim・Rizal Jailani・Rozana Mohamad Said・Noor Aishah Hussin・Firza Abdul Jalil・Siti Khairunnisa Abdullah（マドラサ・イルシャド・アル・イスラミア）、Edmund Lim WK（Principal consultant & partner with Singapore Education Consultancy Group）

ここに深い感謝の意を表したい。

本書は、令和2－4年度科研費補助金基盤研究B「複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルの開発に関する国際比較研究」（課題番号：20H01294）より研究助成を受け、出版刊行したものである。

2024年11月
著者を代表して
深谷圭助